

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム つどいの家
(ユニット名)	つどいの家(なごみ館)
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県始良町
記入者名 (管理者)	増田 幸子
記入日	平成 21 年 6 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・地域密着型として、安心して暮らせる環境と住み慣れた地域での生活の継続支援を念頭に置いている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・朝夕の申し送り時に唱和し、日常的に理念に基づいた取り組みが実践されているか確認し合っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>・運営推進会議等や自治会の催事等に参加したりして、交流に努めている。</p> <p>・入所時に説明して理解していただいている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・日常の生活の中で、近隣の人たちとの挨拶はもとより野菜など差し入れ等をして頂いたりしている。また、回覧板をもつていたり、散歩外気浴で、顔なじみになっている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・近隣の保育園児やボランティアの皆さんが誕生会等事業所の行事に参加し交流を深める</p> <p>・自治会の催事等に出来る限り参加を心掛けている。(運動会、かごづく、鬼火だき)</p> <p>・防火訓練等への協力をお願いしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、事業所の運営理念や重要事項の説明を丁寧に説明している。特に退所に関する取り決めについては、不安、疑問点を説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・入居者の普段の会話や、面会において、要望や意見をお尋ねし、検討して迅速にケアに活かせるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・ご家族の面会時に利用者の状況(生活状態心身の状態)を話し合う。特変時はその都度電話連絡を行う ・おこずかい台帳は月締めにて収支報告書を領収書添付の上送付する。 ・日常生活の近況については、職員のコメントを添えて送っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族との会話の中から、要望等を組取り、また相談等はミーティングにて議題として取り上げ統一を図る。御意見箱の設置で、意見を頂いている。	○ ・気軽に話して頂ける雰囲気作りに努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティング等で職員の意見が反映されるように心がけている ・月一回の法人の全体会議で提案や意見の場を設けている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・入居者の状況や家族の要望等に合わせて、勤務シフトを臨機応変に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・法人内の移動は最低限としている ・各ユニットは固定化しているが緊急時想定し普段から行き来して、顔なじみの関係を築いている ・退職時は引き継ぎの時間を十分にとり、家族等にも面会時および月の便りにて報告し影響を最小限抑えるよう配慮している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容に応じて研修の機会を確保している。 ・法人内の研修会への参加、ホーム内での定期的な勉強会の実施 ・研修報告をミーティング時に行い全職員が認識する。 	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の協議会に加入しており、研修等に参加して交流する機会を持っている。 ・問題点や課題について地域の施設方と電話で連絡を取り合ったり、訪問して意見、情報交換を行っている。 	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士の人間関係の把握や勤務状態に気配りして、要因の早期の発見や軽減に努めている。 ・法人内の催しものへの(焼き肉大会、忘年会)参加。 	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営者も週2回以上はホームに訪れ、入居者や職員と会話している ・就業規則や人事考課を取り入れ、職員の働きやすい場に取り組んでいる。必要に応じて、個人面談を実施している。 	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族の方が安心されるように、できるだけ面談の回数、時間を設けて、よりよいサービス、方向性をともに考える 	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の想いを傾聴し、本人との思いの違いなど双方にとって何が今必要かその他相談など機会を設ける。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談、連絡時は本人や家族の思いを傾聴し、必要時は、居宅事業所や他のサービス機関へ照会、相談によりよりよい方向性を見出している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・できるだけ入居前に家族、本人にホームを見学して頂いたり、本人が無理な場合は、こちらから出向いて顔見知りの関係を創る ・生活歴を活用して、少しでも早く、本人が生活に慣れ、落ち着いて頂けるように図っている。	○	・事前に面談を行い、生活歴など把握、生活の場として継続して安心暮らしてもらええる雰囲気を提供している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の生活歴から得意な分野を教えて頂いたり、日頃の生活をともに過しながら話を傾聴したり、レク等を通して笑ったり、楽しんだりして頂く。 ・常に本人に寄り添い、思いや悩みも分かり合える、支え合う関係を作り上げている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時等を捉えて本人の状態を報告したり、現状に対してご家族とともにケアについて共有に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時には、ご家族にも介護の支援をして頂きました、居室に本人との時間をゆっくり過ごせるようにセッティングをする。 ・本人と家族との関係作りは、職員が中に入り、想いを上手く伝えることで、良い関係を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・在宅時での近所の人の来訪を家族にお願いしたり、遠方の家族、親戚にはそのつど電話等で連絡を取ってもらったりしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・入居者の性格等を生活歴から全職員が把握し、利用者同士のより良い関係の構築や、問題発生時は、職員が調整役となり気まずくならないように配慮する		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の事業所に移られても、家族からの相談や必要に応じて面会に訪問している。 ・電話等での問い合わせにも気軽に対応している。 	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の会話や家族との面談の中からきずきを得る ・レクや共同作業時に、日常の会話の中で本人の意向を見出し把握に努めている。 ・想いを言葉で表現できない方に対しては、動作や表情にて察するように努めている。 	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に本人や家族から生活歴を聴き取り、後にも会話の中から情報を得て、全職員が共有し、その人らしい暮らしをケアに活かしている 	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活パターンを把握し、出来ること、役割を見出しケアに結びつける 	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いや家族の要望、意見等を交えて、ミーティング等で全職員が検討を行い、その人らしい暮らしを基本に、介護計画に活かす。専門職の意見を聞き、プランに反映させている。 	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での現状把握と家族・本人の要望をミーティングで検討する。 ・精神、身体に応じた見直しを行っている。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・家族の意向を尊重しつつ、主治医と連携し必要に応じて専門医の受診している。受診時には、情報提供書や日常生活状況など必要な情報も提供している		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・協力医療機関との契約により、看護師に来所して頂き入居者の状態全般について相談している。尚 緊急時にはそのつど対応している		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時には、必要な情報を提供して、医療機関とも連絡を密にとり早期の退院や本人の混乱をなるべく少なくするように努めている ・家族とも連絡を密にとり、職員もできる限りお見舞い等に訪問し励ましダメージの軽減に努める		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・本人、家族との話し合いのもと入居時に確認している ・その時々状態に応じて、ご家族と主治医を交えて再度意思確認を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・家族、職員、主治医との連携を密にとり(24時間体制)、随時意思確認を取りながら対応している		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人の情報提供やこれまでの日常生活状況の情報交換を十分に行い、生活の継続性が損なわれないよう配慮する		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・入居時に事業者としての個人情報についての取り組み方を説明 ・日常の介護の中で人権・プライバシーの保護の観点から職員同士が声掛け合ったりして確保に努めている。	○ ・個人名を一番地、二番地と仮称で呼んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居者に声掛けして決めていただく ・意思疎通の困難な人には仕草や表情を見極め察する	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日常生活において、可能な限り無理じいしない、一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。(食事時間、入浴時間)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・衣類等は本人と一緒に選び、必要に応じて声掛け支援している ・行事等では化粧などして楽しんでもらう ・ダンスに種類別に記し本人がわかりやすく整理している ・理容はホームに来て頂いて行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・できる入居者には、季節の物を下ごしらえして頂いたり、盛り付け等手伝いを一緒に行っている(盛り付け・テーブル拭き・食器洗い等) ・嚥下困難な方々にはお粥、刻み食など工夫して食べていただく ・嗜好調査などから食べたい物を聞いて献立に取り入れている ・食前に嚥下体操等を実施。	○ ・出来る限り自力摂取をしていただくために、声掛け、見守りを行う
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・本人の希望により買い物に出かけたり、家族の差し入れなどお願いしている ・個々の要望により入居者間のトラブルが起きないように考慮する	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンや時間帯での誘導、声掛けを行っている ・夜間帯と日中はおむつ等外したりして工夫している ・失敗に対しては自尊心や羞恥心を考慮してさりげなく支援している 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意思により時間帯を決めている ・拒否される方には無理時にせず、時間帯をずらしたり、他の職員が声掛けしたりして安心して楽しんで入浴して頂けるように配慮している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の順番で、問題が時折あるが、なるべく入居者の要望に沿うようにしたい。 ・冬至にはゆず湯、端午の節句には、菖蒲湯の入浴を楽しんで頂いている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向を尊重しつつ、生活パターンを整えて特に昼夜逆転を防止する ・職員全員で入居者の過ごし方について意識する 		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・生活歴より以前の職業を活かした支援（裁縫・野菜作り・編み物・短歌）日常生活の中で、本人の得意分野を見出し、生甲斐のある生活を送れるようにしえんしている。 		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・能力的に、自己管理は難しいために、家族の了解のもと御預かりしている。 ・買い物に出かけた時は本人に支払っていただけるようにしている 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩、ドライブ等できる限り入居者の要望に答えているが、事業所の都合により後日になるケースも多い ・ホームの菜園にて野菜作りをして収穫の喜び等も味わってもらおう ・一日最低一回は外気に触れるように心がけている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の重度化された入居者は外出の機会が少なくなりがちである家族の協力を得ながら機会を増す工夫を検討したい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向や家族との協力のもと個々に対応している(お墓参り、自宅訪問)。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方の家族等にお祝時等に電話や手紙を書いて関係の継続に努めている ・本人の要望時にはそのつど対応している。 ・贈り物が届いたときは必ず電話連絡して本人と会話して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間を設けず、来所されたら気軽に過ごしていただけるように場をセッティングしたり、食事等を一緒に取って頂いたりしている	○	・来客者で宿泊希望の場合は受け入れている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・勉強会などで、拘束の意義を職員全員が認識し、また職員間で声掛けして禁止に取り組んでいる。状況において家族と話し合いをもっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・入居者のその日の状態を申し送り等ですべての職員が把握する ・職員同士が声を掛け合って、外出を察したら一緒にさりげなく同行する ・職員数が少ない時間帯等は状況に合わせて対応している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・本人の仕草等でサインを察知してさりげなくフォローする ・夜間帯は定時に巡視したり、訴え等には迅速に対応できる体制をとっている ・入居者と職員が同一空間にて見守り、作業するように努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・一人ひとりの状態、必要に応じて対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・個々の入居者の状態を把握し、申し送り等で全員が周知し未然防止に取り組んでいる。(ヒヤリハットを記録し全員で確認、認識をもつ) ・配薬は担当を決めておこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時の対応も主治医と24時間体制で連絡が取れる体制とし、個々の状態での初期対応も主治医の教えを頂き全員が認識する	○	・救命救急の講習予定(地域の方も一緒に)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練を定期的(年2回)に消防署の指導の下実施し、避難経路や未然防止について職員や入居者、隣近所の方の協力のもと行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にた対応策を話し合っている	・入居時に家族に説明して理解を得る ・入居者の状態変化に対応して家族とそのつど連絡、対応策を確認している		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日常の個々の状況も把握し、バイタルチェックや食事量、排泄、動作に気配りし状態変化を早期に発見し対応している。又申し送り等で伝達している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬状を個々にファイ化し、確認できるようにしている ・処方が変わった時は申し送り等で確実に伝え全員が内容把握できるようにしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・個々の排泄記録を記入して観察を行っている ・排泄時腹部マッサージ等で促している ・自然排便が困難な場合はDrの指示を頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後本人の能力に応じて。声掛け、一部介助している ・義歯は就寝前洗浄している ・口臭や嚥下性肺炎予防の観点から口腔ケア支援をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取量は個別に解りやすく記録に残している ・入居者の好みについては家族からの情報をもとに個別に対応している ・栄養士の献立を参考にしている ・嚥気障害の方々には、症状に応じて工夫こらして栄養のバランスに気をつけている 	○	・水分量摂取が上手く摂れない人には、好みや物やトロミをつけて対応している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に関しては、マニュアルを作成し、勉強会や主治医の意見等も考慮し対応している ・普段から家族へ呼びかけを行ったり、特に流行時には体調不良の方の面会を玄関に主旨を提示しお断りしている。 ・外出からの帰宅時には必ず、うがいや手洗いの励行に努めている。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房製品は定期的に漂白し清潔に努めている。 ・賞味期限も確認し、なるべく在庫しないように心がけている 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入りやすいように玄関口に季節の花など置いたりして家庭的な雰囲気を出している 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が自分の力で過ごせるように必要なところには手すりを取り付けたりして取り入れてる ・食卓代に草花を飾って頂き、季節を感じて頂いている。 ・壁画等も入居者と職員が一緒になって季節の飾り付けや手工芸に取り組んでいる 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファ一置いたりして少人数で過ごせる空間を作っている 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>・玄関先や中庭に花々など植え込みや季節感を味わっていただく</p> <p>・ベンチを置いて茶話時間や外気浴を楽しんでいただき、菜園で野菜作りの教え、収穫の喜びを感じていただく</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月努力目標を定め、本人のあるがままを受け入れ、安心した生活ができるように心がけている。
- ・地域の催事や散歩外気浴で、草花を見たり、触れたりすることで、季節を楽しんで頂く。
- ・野菜や花の種まきから参加することで、成長を見守り、収穫の喜びを共に感じる。
- ・母体が医療法人であるため、緊急時の対応、健康管理など安心して暮らせる環境である。